

湖

M i z u u m i
No.180 Winter

●湖 Interview

サッカー日本女子代表コーチ 望月聡さん
びわこ成蹊スポーツ大学准教授

●近江の文学風景

『平家物語』

●新・湖国探訪 近江の不思議

マキノ高原に続く一本の美しい並木道

●SHIGA BANK Report

「農林水産大臣賞」を受賞 他

奇跡の“なでしこジャパン” 世界が認めるナンバー1に!

湖 INTERVIEW

サッカー日本女子代表コーチ
びわこ成蹊スポーツ大学准教授

望月聡さん

女子サッカーワールドカップドイツ大会で優勝し、
2012年ロンドン五輪への出場を決めた
「なでしこジャパン」(日本女子代表)。
コーチとしてチームを支える望月聡さんは、
オリンピックで金メダルをめざす一方、
故郷・滋賀のサッカー文化を高めるために
選手や指導者の育成にも尽力しています。



ワールドカップドイツ大会では金メダルとファインプレー賞が授与された。



CONTENTS

1 湖 Interview
サッカー日本女子代表コーチ
びわこ成蹊スポーツ大学准教授 望月聡さん

6 近江の文学風景
『平家物語』

11 新・湖国探訪 近江の不思議
歩きたい道ベストワン?
マキノ高原に続く一本の美しい並木道

16 SHIGA BANK Report
「農林水産大臣賞」を受賞
～第2回いきものにぎわい企業活動コンテスト～
生物多様性保全を願って
「ヨシ刈りボランティア」を実施

表紙写真/旧竹林院庭園(大津市提供)
裏表紙写真/(社)びわこビクターズビューロー提供

Customer Satisfaction

種谷麻理
(桂支店・融資係)

町家風の快適な新店舗で
お客さまのご相談に対応



mari taneyama

昨年10月に京町家をイメージした新店舗になり、ロビーも
明るく広くなりました。新築の話を機に、これまでお話しする
機会の少なかったお客さまとも会話が弾み、新たなお取引
がはじまるきっかけにもなっています。以前も担当していた
融資係に約1年前から配属され、住宅ローンや資産運用等
を担当しています。お客さまの人生設計に携わるので責任
のある仕事ですが、同時にやりがいも感じています。お客さ
まとの出会いやつながりを大切にして、何でもご相談いた
だけると嬉しいです。



桂支店

京都市西京区川島
有栖川町11-1
☎075-381-2161
アクセス
▶阪急桂駅西口すぐ

DATA

大道 ●女子サッカーワールドカップ（以下W杯）ドイツ大会優勝、並びにロンドン五輪出場決定、本当におめでとうございます。国民栄誉賞にも輝いた「なでしこジャパン」の快挙について、コーチングスタッフの一人として、率直なご感想をお聞かせいただけませんか。

望月 ●素直にうれいというのが一番の感想です。表彰台に立つ「なでしこ」たちを見た時、男子のW杯南アフリカ大会で優勝したスペインの選手の姿と重なり、よく勝ったな、凄いいことを成し遂げたなど、いろいろな思いが込み上げました。

大道 ●アメリカとの決勝戦は日本では深夜に放送され、私は目覚ましをかけて起きて見ていました。後半終盤にアメリカに先制され、私はあきらめかけたのですが、その直後に追いついた。延長戦でも先に点を取られましたが今度も土壇場で追いつき、最後はPK戦を制して勝ちました。



女子ワールドカップドイツ大会で「なでしこ」たちと練習する望月さん(左)。写真提供/日本サッカー協会

奇跡的というか、本当に素晴らしい試合で感動しました。

望月 ●ありがとうございます。

ます。アメリカはFIFA(国際サッカー連盟)ランキング1位。前半でその強さを見せつけられましたが、選手たちはよく防いでくれました。

大道 ●決勝トーナメントは強豪揃いでしたね。戦っていく中で「これはいけるな」という手応えを感じられたのはいつですか。

望月 ●予選リーグで勝ち進む中で自信をつけ、準々決勝で過去2回連続優勝している開催国ドイツに延長の末に勝った時、みんなが「優勝できるのでは」と思ったのではないのでしょうか。試合を重ねるごとに選手の目つき、顔つきが変わり、アスリートらしさを感じました。

大道 ●高校野球でも勝ち上がるごとに成長していくのを実感することが多々あります。みんなの気持ちもひとつになつていきますね。

望月 ●私たちは、自分で判断して決断できる、自立した選手を育てたいと考えています。刻一刻と変わる勝負の局面で、コーチが指示を出してから動くのでは遅い。その瞬間に彼女たちが自分で判断してプレーしないとけません。そういう意味では、北京五輪後に海外でプレーする選手が増え、言葉や環境の壁を乗り越えて

たくましくなり、自立してくれたことも大きかった。

大道 ●強い気持ちを持っている選手が一流になるのでしょうか。

望月 ●優勝できた一番の勝因は、最後まであきらめない粘り強さだと思います。強いアメリカに先制点を取られたら、普通は「ここまでか…」と思いますが、彼女たちの心は折れなかった。試合に限らず、日頃から練習のあとに自主的にミーティングやビデオ研究を重ねていたため、それが粘り強さにつながったのでしょう。

大道 ●昨年は大きな震災がありました。が、なでしこたちの活躍は日本を勇気づけてくれました。彼女たちのプレーにみんなが感動したと思います。まさに国民栄誉賞にふさわしい。

望月 ●予選リーグで戦っている時から、日本から応援のメールや手紙がたくさん届きました。被災された方から「なでしこのがんばりが私たちに夢や希望を与えます」という言葉をいただき、彼女たちはそれを見て一層がんばれたと思います。

大道 ●「なでしこジャパン」におけるコーチの役割を簡単に教えていただけますか。

望月 ●佐々木則夫監督がチームの方向性や目標を決め、私は選手の意識がそこに向くようにサポートしたり、コミュニケーションを図ります。選手がやりやすい環境をつくるのが大事で、褒めるだけでなく悪いところも



ワールドカップ試合中のベンチ風景(右端が佐々木監督、その左が望月さん)。写真提供/日本サッカー協会

指摘し、それぞれの選手の個性を出せるように接しています。

大道 ●佐々木監督の著書『なでしこ力』を拝読しました。監督とは選手を鞭で叩く御者ではなく、選手を目的地に連れて行く馬車みたいなもの——と考えられているようですね。

望月 ●「コーチ」という言葉にはもとも馬車で行きたい所に運ぶという意味があるそうです。佐々木監督はその意味を理解し、「こういうサッカーをしないか」と選手たちを納得させてから取り組む。だから彼女たちは苦しい練習や問題にぶつかっても「私たちが決めたこと」と捉えます。

選手と一緒に学ぶというスタンスを持った監督だと思っています。

大道 ●望月さん自身も指示するより、選手たちに関心すること、問うこと、聞くことが大切にしてもらえるそうですね。



“なでしこ”が日本に与えてくれた勇氣。
まさに国民栄誉賞にふさわしい活躍ですね。

滋賀銀行取締役頭取 大道良夫

自分で判断できる自立した選手たちの
最後まであきらめない粘り強さが勝因です。

サッカー日本女子代表コーチ 望月聡さん(もちづきさとる)
びわこ成蹊スポーツ大学准教授





Profile ● 望月 聡

1964年生まれ、大津市出身。滋賀県立守山高専学校では高校選手権ベスト4。大阪商業大学では大学選手権3連覇、総理大臣杯2連覇に貢献。日本サッカーリーグ1部の日本鋼管を経て、Jリーグ発足後は浦和レッドダイヤモンズ、京都パープルサンガでプレー。日本代表として国際Aマッチ7試合に出場。2008年びわこ成蹊スポーツ大学准教授に就任。同年より日本女子代表コーチにも就任。北京五輪ベスト4、広州アジア大会優勝、FIFA女子ワールドカップドイツ大会の優勝に貢献。指導者として初の滋賀県スポーツ特別賞を受賞。
※写真はJリーグ現役時代の望月さん

を認識させてくれ、自分でもそのやり方が好きだったので、いつしか私の指導者哲学になりました。
大道 ● 指導者として、これからの目標を聞かせていただけますか。

望月 ● まずは、びわこ成蹊スポーツ大学サッカー部の監督をしているので、大学日本一をめざし、誰もが認めてくれるいいチームをつくりたいと思っています。「なでしこジャパン」では、佐々木監督と一緒にロンドン五輪で優勝すること。私はこれまで、仲間の大切さや努力することなどサッカーを通して人生を学ばせてもらったので、故郷・滋賀の育成年代の選手や指導者を育てることに力を入れたいと思っています。そして、いつか男子サッカーの代表監督に挑戦してみたいですね。
大道 ● 日本のサッカーのためにも、これからの活躍に期待しております。まずはロンドン五輪の金メダルですね。できれば私もロンドンに飛んで応援したい(笑)。本日はありがとうございました。



びわこ成蹊スポーツ大学サッカー部のスペイン遠征にて(対戦相手と一緒に。後列右端が監督の望月さん)。

五輪優勝を目指して佐々木監督とチームを高め、人生を学んだサッカーを通して人を育てたい。

ら国内合宿や海外遠征、事前合宿をしてロンドン入りする予定です。

大道 ● 新たな課題はありますか。

望月 ● 一番考えているのは、日本のストロングポイントである協調性、持久力、器用さを高めること。海外の選手よりもやや劣る、個々の身体能力をどんどん伸ばすことも大事です。実はなでしこの下の育成年代には運動能力が高く、テクニクもある選手がいます。長い目でそういう選手を新しく発掘するスカウティングも進めようと思っています。

大道 ● 女子サッカーの層が厚くなっているのですね。

望月 ● 育成年代の課題は中学校に女子サッカー部がないこと。小学生は男女一緒に練習できますが、中学生になって部活がないと、地元クラブチームがない限り他のスポーツに移ってしまう。女子中学生がサッカーをできる環境を整えば、能力をもっと高めることができます。その環境づくりを考えているところです。

前という雰囲気でしたが、現場はいかがでしたか。

望月 ● W杯後は所属するチームのリーグ戦やこれまで経験したことの無いようなメディア対応に追われました。彼女たちはとてもうれしかったようですが、プライベートな時間もあまりない状況で、目に見えないストレスをいっぱい抱えていたと思います。
大道 ● 心身ともに大変お疲れだったでしょうね。

望月 ● 周囲の期待は高かったですが、なでしこたちのあまりの疲れ具合に、私たちは出場権が得られる2位までに入れるかどうか危惧していました。結果的には僅差の試合ばかりでしたが、疲労がピークの中で1位通過した彼女たちに、W杯チャンピオンの貫禄を感じましたね。

大道 ● 望月さんはびわこ成蹊スポーツ大学の准教授でもありますが、大学ではどのような科目を教えておられるのですか。

望月 ● スポーツ情報戦略コースで、スポーツデータを現場に活用するために、サッカーを中心とした映像分析やゲーム分析などを指導しています。「なでしこジャパン」での取り組みも話すので、学生は興味を持って聞いてくれています。

大道 ● 大学には体育教師や指導者を目指す学生が多いと聞きますから、実践力がつくことでしょうか。同大の教授の松田保さんは、守山高専時代のサッカーの恩師ですね。

望月 ● 私が守山高専に進んだのも、びわこ成蹊スポーツ大学で教えるようになったのも、松田先生に声をかけていただいたのがきっかけ。先ほどから「自立した選手を育てる」と話していますが、これは松田先生の教えでもあります。高校時代に選手の自主性を尊重し、自立することの大切さを認識させてくれ、自分でもそのやり方が好きだったので、いつしか私の指導者哲学になりました。

大道 ● これでロンドン行きが決まりました。五輪のピッチに立つってなでしこたちがとても楽しみですね。

望月 ● 目標は言うまでもなく金メダルを取ることに。日本はFIFAランキング4位(2011年7月発表)。女子サッカーは世界トップ3がいつも優勝しているの、世界が認めるナンバー1になるにはロンドン五輪の優勝が必要になってくると思います。今そのためのスケジュールを調整中で、これか

平治の乱（一一五九年）で源氏を追い落とした平家は日の出の勢いで天下に君臨するが、わずか二十年で滅亡。まさに《おごれる人も久しからず、唯春の夜の夢のごとし》だった。その絶頂期を築いたのが平清盛である。一介の地下人にすぎなかった清盛は政治を公家から武家の手に移し、社会の構造を大きく変えた。



平良集落は平家の落人の里だと古老たちは子や孫に語っていたという。伝承ではあるが、それが納得できる深い山の集落である。

近江にもあった伝承・平家の里

高島市朽木平良は安曇川支流の針畑川に沿う集落である。たまたなく山々の深い巖の中で清冽な空気にくるまれて十戸ばかりの家が点在する。〈清らか〉という言葉をも具現化すればこんな風景になるのかな…と思うほど穏やかな里だ。実はここは平家の落人の里とも伝わる。〈平〉〈良〉の地名は平家の武将たちの誇りをもつて名づけられたものだろうか。

『平家物語』は、奢れる日々から滅びへ向かった〈平家一族〉の栄枯盛衰の話である。平家の人々は西海に消え、あるいは捕らえられて処刑されていくが、逃げ延びた人たちもいた。この平良に住み着いた人たちのように、山を守り、畑を耕し、静かな暮らしを見つけた人たちもいたのである。

清盛に愛された 祇王の故郷は野洲

清盛の妻の兄平時忠の《此一門にあらざらむ人は、皆人非人なるべし》という言葉にもうかがえる平家の隆盛が始まるこの物語は全十二巻と灌頂巻から成る壮大な軍記物語で、舞台も日本全国に及ぶ。近江は折に触れて登場するが、殊に比叡山は再々登場し、平家と拮抗する当時の山門の力のほどを推察できる。



『平家物語』では〈比叡山〉が頻りに登場する。比叡山の当時の〈力〉の程がうかがえる。

※1 出典による。時子の弟という説もある。
※2 白拍子:平安末期から鎌倉時代にかけて行われた歌舞。また、それを業とする女性。

『平家物語』

《祇園精舎の鐘の声

諸行無常の響きあり

娑羅双樹の花の色

盛者必衰の理をあらはす

……

琵琶掻き鳴らす法師の語りは壮絶で

平家の亡霊たちは生き生きと蘇る

鎮魂と肉体の物語



緑に包まれた義仲寺境内。木曾義仲、松尾芭蕉の墓のほか、巴御前や山吹御前の塚もここに安置されている。

勢いづいた義仲だったが、粗野な言動は都人からも頼朝からも疎まれ、頼朝は遂に義仲の狼藉鎮圧に義経を差し向ける。義仲は近江栗津で討たれ、乳兄弟の今井兼平も壮絶に死ぬ。義仲の墓は、愛妾巴御前が彼の供養に結んだ庵に始まると伝わる膳所の義仲寺にある。ここには「骸は木曾塚に送るべし」と遺言した俳聖松尾芭蕉も眠り、また巴御前と、もう一人の義仲の愛妾山吹御前の塚も建立され、小さな

生島明神に奉納する。《明神感応にたへずして、経正の袖のうへに、白竜現じて見え給へり》。
竹生島の美しさは《心も詞もおよばれず》と語られているが、竹生島は今も「深緑・竹生島の沈影」として「琵琶湖八景」の一つに選定されている。
義仲が京に攻め入るころから平家の人々は次々と都落ちし、歌に秀でた平忠度も「よごなみの志賀の都は荒れにしを昔ながらの山ざくらかな」の歌を藤原俊成に託し西国に落ちていく。

勢いづいた義仲だったが、粗野な言動は都人からも頼朝からも疎まれ、頼朝は遂に義仲の狼藉鎮圧に義経を差し向ける。義仲は近江栗津で討たれ、乳兄弟の今井兼平も壮絶に死ぬ。義仲の墓は、愛妾巴御前が彼の供養に結んだ庵に始まると伝わる膳所の義仲寺にある。ここには「骸は木曾塚に送るべし」と遺言した俳聖松尾芭蕉も眠り、また巴御前と、もう一人の義仲の愛妾山吹御前の塚も建立され、小さな



祇王井川の水源地跡の碑。水はここから琵琶湖野田浦までの田畑を潤した。現在の取水地はここより下流。

話である。この祇王の出身地が野洲。祇王の父親が野洲江部荘の役人だったといい、野洲には祇王の屋敷跡が伝えられ、さらに祇王井川という水路が集落の間を縫い野洲の平野を潤している。祇王がまだ清盛の寵愛を受けているころ、水不足に苦しむ故郷野洲に水路を通して欲しい、と清盛に願ってできた灌漑用水だ。野洲川から取水して延々十二キロ。人々はその水路や彼女が建立した寺に彼女の名をつけた。妓王寺には本尊阿弥陀如来坐像と並んで僧形の祇王母娘の木像も安置、祇王への感謝を伝える。…のみならず今なおこの地に恵みをもたらしてくる祇王井川の清掃や法要も続いている。



勢いよく流れる祇王井川。水は田畑のみならず人の心をも潤してくれる。

平家の驍りと源氏の台頭

日増しに横暴になる平家に対して反平家の動きは広がり、後白河法皇の皇子以仁王も平家打倒に動く。が、失敗。三井寺に逃げ、さらに奈良に逃げる途中で討死した。以仁王を匿った三井寺は清盛の四男平重衡に大津の町もろとも焼かれてしまう。その後、平家は都を福原(神戸)に遷し

ちなみに、この頼朝の旗揚げを支えたのが元は近江を拠点にしていた佐々木定綱たち。佐々木氏が代々近江の守護職に就くことになったのはその功績からである。後、定綱の四人の孫(重綱・高信・泰綱・氏信)のとき、近江は四つに割拠。三男泰綱が惣領と近江守護職を継いだ。「平家物語」では語られていないが、近江の佐々木一族もこの頃、隆盛を迎えたのである。

北陸では頼朝の従弟の木曾義仲が旗揚げした。平経正や忠度は義仲追討に北陸に向かう。その途中、塩津、海津辺りで目にした竹生島に魅せられた経正は島に渡り、得意の琵琶を竹



最後まで義仲に従った今井兼平の墓。JR石山駅近くの木立の中にひっそりと眠る。

境内は彼らの魂が談笑している錯覚さえしそうなほど静穏に充ちている。なお、兼平はJR石山駅に近い盛越川の畔の木立の中に眠っている。

平家の終焉

義経の活躍で西海に追い詰められた平家は遂に壇ノ浦に滅ぶのだが、大将平宗盛、清宗父子は捕らえられ、鎌倉に送られる。そして、再び都に送られる途中の近江国篠原で斬首。首は都に運ばれたが、胴体は父子ともにここに埋められた。現在の野洲市篠原。国道八号線の南の山裾に並ぶ自然石が宗盛、清宗父子の胴塚と伝わり、その前のため池が父子の首を洗った池だといふ。池は以来、蛙が鳴かなくなり「蛙鳴かずの池」と呼ばれている。

平家は壇ノ浦合戦(一一八五年三月)で敗れるが、平家終焉となると、この宗盛、清宗父子の処刑のとき(一一八五年六月)であるとも、平維盛の子六代(清盛の

義仲の鎮圧に向かう途中、平経正は竹生島に渡り、ここで得意の琵琶を奏でた。

※3 出典の底本(覚一本系・高野本)による。正確には五男。次男基盛は早世しており、重衡は四男として書かれている。



歩きたい道ベストワン？ マキノ高原に続く一本の美しい並木道

冬景色、春の芽吹き、新緑、紅葉と、一年を通じて絵になる並木道を「存じでしようか。どこまでもまっすぐに伸びる一本の道。なぜこの場所に？ どうして生まれたの？ ふと車を止めて歩きたくなる、高原に続く美しい道です。

近江の文学風景

※本稿は「新編日本古典文学全集45・46」(小学館2006年3月20日発行)によった

『平家物語』では、近江は戦の場として語られてもいるが、敗れた平家の武将たちが東国に送られていくときに、平家の人々にとつて懐かしい風景、万感の思い迫る土地として語られている場面が印象に深い。たとえば重衡の鎌倉送り、たとえば時忠の能登送り……。細やかに、鮮やかな(近江)が見えてくる。丁寧な描写は風景だけではなく、人の心の動きや武将たちの戦装束なども同じ。これはこの物語が琵琶法師によつて(聞かせ)伝えられた話であったことにも起因しているが、それが近江の美しさをより鮮明に想い描かせてくれている。



平宗盛・清宗父子は鎌倉から京に送られる途中、近江国篠原で処刑された。

ひ孫)が斬られたとき(一一九八年)とも……。いずれにしても六代の死で、《平家の子孫は、ながくたえにけれ》と結ばれて『平家物語』十二巻は終わる。壇ノ浦で救われ京の大原に隠棲した建礼門院(しむと)の舅の後白河法皇との再会の話などは、続



「平家物語」の風景を歩く

◆「平家物語」の作者について
もともとは琵琶法師が口承で伝えてきた語り物で、鎌倉時代中期の成立と思われるが、作者については諸説がありはっきりとしない。古くは吉田兼好の『徒然草(つれづれぐさ)』に信濃前司行長(しなののぜんじゆきなが)の名が記されている。また、『尊卑分脈(そんびぶんみやく)』や『醍醐雑抄(だいござっしょう)』などでは葉室時長(はむろときなが)が作者であるとされている。

◆「平家物語」と近江
平安末期に強大な武力を背景に勢力を誇っていた延暦寺や園城寺(三井寺)が物語にしばしば登場する。また、巻一「祇王」で描かれる白拍子・祇王は現在の野洲の出身で、妓王寺、祇王井川などゆかりの地も多い。巻七「竹生島詣」では遠征途中の平経正が竹生島に参詣。巻九「木曾最期」では木曾義仲が天津の粟津で義経に討たれる。義仲の墓は義仲寺にある。巻十一「大臣殿被斬(おおいとのきられ)」で平宗盛・清宗が処刑された場所が野洲の篠原。父子の冢が残されている。

アクセス
▼妓王寺/JR野洲駅からバスで江部下車、徒歩約15分。
竹生島/長浜港から竹生島行き観光船で約20分。*今津、彦根からも連絡船あり。
義仲寺/JR京阪膳所駅から徒歩約10分。

Profile) 文・写真 ●西本柳枝(にしもと・なぎえ)

『東海自然歩道』『ひとり歩きの山陽山陰』など旅の案内書や紀行エッセイ、詩集などの著書。紀行エッセイには本誌連載の「近江の文学風景」をまとめた『鳩の浮巢』(サンライズ印刷出版部)『湖の風回廊』(東方出版)などがある。KEIBUN文化講座講師・日本ペンクラブ会員・日本詩人クラブ会員。

平成15(2003)年夏、39年前の昭和39年に撮影した地点から定点撮影。右手にマキノピックランド、マキノ高原には温泉施設「さらさ」ができた翌年にあたる。



昭和39年の現マキノピックランド付近。道の切れるあたりが堀切川。マキノ栗園の開発工事がはじまった翌年に撮影。

「道」といえば、フェリー二監督の有名なイタリア映画を思い出す。時代は変われど「道」は絵になり、ドラマになる。思えばふだん、誰もがいろんな道を通っている。好きな道もあれば、そうでない道もある。はじめて通る道でも、たまたま車で通過するだけの道でも、素敵な道だなぁ、通り過ぎてしまっただけでもない、ゆっくり歩いてみたいなぁ、と心に残る道がある。これからご紹介するのは、湖西でみつけた、そんな素敵な道である。

美しい道には
ドラマがある

高島市マキノ町。国道一六一号線を離れ、スキー場のあるマキノ高原へと向かう途中に、その並木道はある。全長一四キロのまっすぐ伸びる道。その両側に続く約五百本のメタセコイア。天空めざしてそびえる木々が、どこまでも美しいV字ラインを描く。

この並木道は、地元高島市ですでおなじみだろう。市の観光案内には必ず登場し、関西一円や中部方面からも訪れる人が多いという。

(一九八二年)『マキノ土に学ぶ里』整備事業の一環としてマキノ町果樹生産組合が植えたのが「はじまり」と説明されている。取材を進めてみると、美しい道にはやはりドラマがあった。

再生へのシナリオ、
幼年期

いまから三十数年前のこと。昭和五十年代初め、マキノ栗園(マキノ町果樹生産組合)は大型台風の通過で大打撃を受けた。昭和三十九年の開発着手より四万本の栗園に発展していたが、立ち枯れ病の影響も相まって台風で軒並み倒木し、残ったのは一万本だったという。当時、ポプフ並木の防風林があったが、それもすべて倒れてしまった。

自然災害からの復興再生、それが並木道にいたるプロローグだったのである。当時のマキノ町役場は栗園再生のシナリオに、ポプラに代わる新しい時代のランドマークになる並木の植樹を考え、そのための木を探した。当時、マキノ町で観光開発を担当し、木の選定にあたった元職員はこう話す。

「ポプラは根の張りが浅いので、もっと強風に耐える木をと並木の視



が、この道の魅力はもっと知れ渡っていないはずだ。こうした美しい並木道に出会うと「いったい誰が植えたのだらう?」と気になる。並木道や街路樹の植栽は数あれど、ほとんどは別に感慨もなく通り過ぎていく。なのに心に響くものがあるということ。他とは違う何か特別なストーリーがあるのではないかと思うのだ。

観光情報によると「昭和五十六

察を行っていました。ちょうどその頃、太古の昔、琵琶湖周辺にはメタセコイアの林が続き、その中をゾウとシカが走り回っていたという古琵琶湖層の研究が新聞に載ったのです。メタセコイアは樹形が美しく、成長も早く、根も深く張る。琵琶湖に縁があるのなら、メタセコイアに決めよう。

県内にはメタセコイアの街路樹がいくつも見られます。でもマキノは農村地帯の一本道だし、高くそびえるのがメタセコイアの特徴。そこで高原の景観にふさわしく、将来的にも通行の妨げにならないよう栗園敷地内に五メートル間隔でゆったりと植えたのです。

しかし十年間は苦労しました。小さいうちはつる植物が巻きついて、組合のみなさんの手入れはそれは大変。木が成長したら成長したで、梅や桜なら実や花がつかない、これは楽しみがない」と、当時の不評もいまは懐かしい話である。



若い並木道を記録した貴重な写真。向こうがマキノ高原。残雪の春、芽吹く前の光景。

まるで映画やドラマに出てくるような…
人を幸せな気持ちにしてくれる一本の美しい道。

「新・日本の街路樹百景」に選定された翌冬の写真(平成7年2月)。清らかな美しさが多くの人々の心をとらえた。



転機は思春期から 二十代

こうした不評が一変する出来事が起こった。植樹して十三年目、樹齢でいえば十五、六歳の思春期を迎える平成六(一九九四)年、読売新聞社「新・日本の街路樹百景」に選ばれたのだ。その選定時の写真が雪の並木道であった。写真にある通り、いま見るとまだまだ背が低く、幼さが残る。やっと美観が整った頃であった。その少し前に、県道沿い五百

相乗効果により、並木道を通過する観光客が俄然^{がぜん}ふえた。

さらには思いがけないことになり、『冬のソナタ』ブームで韓流ドラマファンが訪れるようになった。この雪の並木道はまるでドラマのよう。いやこちらのほうが美しい、とクチコミ情報が広がった。まったく予期せぬ出来事であった。そして平成二十(二〇〇八)年、「恋人の聖地」(NPO法人地域活性化支援センター)にも選定された。全国デビューから十年、メタセコイアはさらに背を伸ばし、二十代の若さをみなぎらせていた。

そして未来へ根を張る

いま、メタセコイア並木道は植樹から三十年が過ぎ、樹齢でいえば三十二、三歳といつとてまだ若う。堂々たる並木に育ってきた。町道にはじまった道は、市道から県道に昇格した。一昨年にはマキノのメタセコイア並木を守り育てる会^もも発足した。並木の成長とともに想像を超えた晩秋の落葉は、交通に支障をきたしかねない。そこで落葉の始末などを会員たちがボランティアで行おうというわけだ。並木道は地域住民の誇りであり、未来につながる財産だ

地元の人々が愛情こめて育てたメタセコイア。 この並木道の向こうに何が見えますか？

メートルに奥が百本の追加植樹をし、並木道は二・四キロ口まで伸びていた。そのマキノのメタセコイア並木道が、ついに全国デビューを果たしたのである。それからは、これまでの苦労と打って変わる追い風であった。メタセコイアが二十歳を迎えるのを祝うかのように平成十一(一九九九)年、農業公園マキノビックランドが誕生した。ここは並木道の起点であり、並木を一心に育ててきた果樹生産組合の拠点施設である。続いて三年後には、マキノ高原温泉「さらさ」が開業。この二つの観光施設の



農業公園マキノビックランド。並木の育ての親であるマキノ町果樹生産組合が運営する。

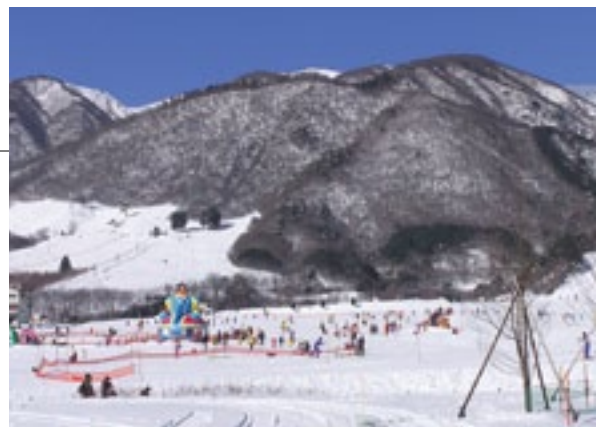


マキノ高原の入り口にあるマキノ高原温泉「さらさ」。並木道を歩いたら足をのぼしてみたい。

Profile) 文●黒田正子(くろだまさこ)

編集者・エッセイスト。京都人も知っていそうで知らない身近な「不思議」を追跡する『京都の不思議』『京都の不思議II』を出版。著書はほかに『京都語源案内』『それは京都ではじまった!』(いずれも光村推古書院)。

という意識が着々と浸透している。マキノ高原にいたる、なんの交差点もなかった直線道路。当時マキノ高原やスキー場をめざす人も、この道ではなく平行して走る県道を利用することが多かったという。栗園の防風を兼ねて町道脇に植えられた苗木が、こんな成長を遂げるといった誰が想像しただろう。一本の美しい並木道が、人の心に語りかけるものは深い。並木道の三十年間をふり返れば、予測のつかない人生ドラマを見ている気がする。



マキノは関西の老舗スキー場。並木道はスキー場や高原地帯のアプローチ道となっている。

謎学サプリ メタセコイアと 近江の不思議な関係

メタセコイアはスギ科の落葉針葉樹で、和名はアケボノスギ。約5000万年前に北半球に繁茂していたが、約80万年前の日本を最後に絶滅したとされていた。1939年に化石を発見し、メタセコイアと命名したのは当時京都帝国大学(現在の京都大学)講師だった三木茂博士。その数年後に中国の奥地で発見され「生きた化石」として有名になった。約400万~180万年前に堆積した古琵琶湖層からも、メタセコイアの葉や球果の化石が多数発見されている。日本はメタセコイアの生育に適しているとされ、1949年に中国から接ぎ木と種子を譲り受けて、各地に広がった。滋賀県ではほかに大津市湖岸なぎさ公園などにメタセコイアの街路樹がある。

写真提供 / (社)びわ湖高島観光協会マキノ支所、マキノビックランド、マキノ高原温泉さらさ、(社)めいどいんマキノ(寺田秀明、撮影=故・高屋平一)

SHIGA BANK Report

琵琶湖をシンボルとする滋賀県に本拠を置く企業の社会的使命として、当行は、第4次長期経営計画の大きな柱に環境を主軸とするCSR(企業の社会的責任)の推進を展開しております。環境保全から地域の福祉まで、さまざまな取り組みをここでレポートします。

「農林水産大臣賞」を受賞 ～第2回いきものにぎわい企業活動コンテスト～



筒井信隆農林水産副大臣(右)から大道頭取に表彰状が贈られました。

滋賀銀行は、平成23年10月14日に東京で開催された「第2回いきものにぎわい企業活動コンテスト」(主催…いきものにぎわい企業活動コンテスト実行委員会)の表彰式で一般部門最高賞の「農林水産大臣賞」を受賞しました。

同コンテストは、日本の企業などの生物多様性の保全や持続的な利用等の実践活動を広く内外に広報することで、活動のさらなる広がりを推進することを目的としています。

今回の受賞は、役員による「ヨシ刈り」や「外来魚駆除釣り」等の地道な環境ボランティア、また、環境対応型金融商品を活用した「ゴロブナ・ワタカ放

流事業」等による琵琶湖の環境と生態系の保全活動が高く評価されました。

当行は琵琶湖の湖畔に本拠を置く企業の社会的使命として「環境経営」を実践し、今後も持続可能な社会の実現に努めてまいります。

生物多様性保全を願って 「ヨシ刈りボランティア」を実施



冬空の下、作業を進める参加者たち。

滋賀銀行は平成23年12月4日、安土町西の湖で「ヨシ刈りボランティア」を実施、当行役員や地元企業のみならずなど約600名が参加しました。

当行では、ヨシの生長を促進するため毎年実施しており、今年度で13年目です。ヨシは、琵琶湖の水質を浄化するほか、魚の産卵や水鳥が息する場所となるなど、大きな役割を果たしています。

当日は、水につかりながら作業する場面も見られ、刈り取り作業に四苦八苦しましたが、琵琶湖の恵みに感謝する一日となりました。

しがぎん福祉基金

特定非営利活動法人 認知症を学び介護する会ほほえみ

「社会福祉法人しがぎん福祉基金」は、滋賀銀行創立50周年を記念し、地域福祉の向上を願って昭和59年8月に設立。助成を滋賀県内に限定した全国でもユニークな基金で、県内の福祉事業に対して幅広い助成を行っています。

楽しく笑っていきいきと！ スリーA教室で認知症予防

東近江市の能登川福祉センター「なごみ」では、高齢者を対象にした「スリーA教室」が、毎週金曜日に行われている。運営しているのは特定非営利活動法人「認知症を学び介護する会ほほえみ」である。

「スリーA」は「明るく」「頭を使って」「あきらめない」の頭文字「A」から名付けられたもので、静岡市の看護師・増田未知子さんが考案した認知症予防のための脳活性化リハビリゲームである。

プログラムは発声練習や簡単な体操から始まり、数種類のゲームを行う。テンポが変わる手遊びではみんな自然と笑顔になり、表情もいきいきと。他にパズルを楽しんだり、箱や竹を太鼓のように叩いたり、脳に刺激を与えることで、心や体が少しずつ元気になっていくという。

「高齢者の皆さんが楽しく感じて、自主的に継続してやってもらうことが大切なんです。もう年だから仕方ない」とあきらめたらダメ。より良い生活を一日も長く続けてほしいというのが私たちの願いです。と教室責任者の山本真喜さん。

もともとは認知症患者の家族が勉強会



ゲームの輪の中で笑顔がはじける参加者とスタッフ。仲間の表情が見えることも大切。

に集まり、そのメンバーが家族会を発足させて、平成19年にNPOに発展。現在、スタッフ14人全員がゲームリーダーの研修を修了している。教室は月に4回、年1回のリーダー養成講座も開催。今回の「しがぎん福祉基金」の助成は、これらの活動の運営費に充てられている。

「地域にスリーA方式をもっと広げたいと思います。私たちがいなくても、さまざまなサロンや施設で使ってもらえるようにしていきたい。ただ、認知症に対して「予防」という感覚が薄いので、ご本人だけでなく、まわりの家族やボランティアに携わる人たちの意識改革も必要」と代表の松田順子さんは話す。

スタッフの年齢も高く、そのほとんどが前期高齢者。後期高齢者の参加者をサポートすることによって、自分たちの老化予防にもなっているという。

「活動に深く関わってきて、生きることをあきらめない、病気をあきらめない、努力をあきらめない…スリーAの、あきらめない、の言葉の重みがかくわかるようになってきました」と山本さん。活動を継続していく大切さを、いま改めて感じている。

東近江市垣見町328番地
特定非営利活動法人 認知症を学び介護する会ほほえみ
☎050-5802-5094

湖

M i z u u m i No.180 2012年1月発行／滋賀銀行 企画・編集／株式会社しがぎん経済文化センター 大津市浜町1番38号(077)526-0005 印刷／大津紙業写真印刷株式会社

